

## 四旬節第四主日

2018.3.11

ヨハネ 3・14-21

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高神父

「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された」。今日の福音のこのことばは「神は世を愛された。それゆえに、神はその独り子を世にお与えになった」というふうにも訳すことができます。

わたしたちは洗礼を受けて、教会に伝えられてきたキリスト教の信仰を受け入れることによって、今日の福音に告げられているこのことが、イエス・キリストにおいて事実となったことを信じる者たちとなったのです。イエス・キリストは、この世に生きるわたしたち一人ひとりに、この世に生きるわたしたち全ての者に、神がそのような愛を示すためにお与えになられた神の独り子なのです。

それにしても、「神の独り子」という表現は独特です。今日の福音の箇所を読んだだけでは、どのような意味で、イエス・キリストが神の独り子と呼ばれているのか理解し難いかも知れません。このことを、理解するためには、先週も振り返った、ヨハネ福音書の1章14節に語られていることを思い出して見る必要があります。「ことばは肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理に満ちていた」と語られていました。神はその栄光をもって、ご自分を現されるのです。「わたしたちはその神の栄光を見た」と告げているのは、弟子たちをはじめとする、イエス・キリストを信じた「わたしたち」です。イエス・キリストを信じる「わたしたち」はイエス・キリストにおいて、肉となってわたしたちの間に宿られた、万物の創造のはじめから神とともに あった、神の創造のことばが放つ神の栄光を見たのです。神は、そのことばによって創造されたこの世界に対して、ご自分の思いを、ご自分の内なる、この世界の対する愛の全てをそのことばによって表明されたのです。イエス・キリストはその神の愛を表明することばとして、肉となってこのわたしたちの世界に来てくださったのです。肉となってわたしたちの間に宿られた神のことばであるお方は、神の独り子と呼ばれています。わたしたちはイエス・キリストにおいて神のわたしたちの世界への愛のことばを聴くのです。

今日の福音のはじめには、「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。それは信じる者が皆、人の子によって永遠のいのちを得るためである」というイエスのことが響いています。モーセが荒れ野で蛇

を上げたよう、と言われているのは、旧約聖書の民数記 21 章に語れていることを指しています。約束の地を目指す荒れ野の旅の途中、その過酷な現実にあたえられなくなった人々は、自分たちをこのように導いたモーセに不平を並べ立て、モーセを通して与えられた神の導きを呪います。すると、神は人々の中に炎の蛇を送り込まれ、その蛇に噛まれた多くの人々が命を落としました。人々が自分たちの非を認めて、蛇を取り除くように願った時、モーセは神の命令に従って青銅の蛇をこしらえて、旗竿の先に掲げました。蛇に噛まれた人々がその青銅の蛇を仰ぎ見ると、それだけで命が助かったというのが、民数記の物語です。

「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない」というイエスのみことば、十字架の上に上げられた、人の子となられた神の独り子イエスのおことばです。神はこのことのためにその独り子を、わたしたちたちの世界に送ってくださったのです。十字架に釘付けにされ、十字架に上げられたイエスは、ご自分のいのちをわたしたちのために与え尽くしてくださったのです。そのイエスのお姿のうちに、わたしたちのこの世界にその独り子を送ってくださった神の愛が示されているのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」と今日の福音が告げていることは、イエスの十字架のお姿によって全うされたのです。十字架の上にその命の限りを与え尽くされた、人となられた神の独り子イエスによって、わたしたちへの神の愛はこれ以上にはない姿で示されたのです。

わたしたちはカトリック信者として、このような神を信じています。このようにしてわたしたちへの愛を示してくださった神の愛を信じています。人となられた神の独り子イエス・キリストにおいて示された神の愛を信じています。

人々に死をもたらした蛇は、それを仰ぎ見る時、人々のいのちを回復させました。旧約の民数記に語られているこのことは、イエスの十字架において現実のこととなったのです。イエスの十字架を仰ぎ見るわたしたちは、そのイエスの死によって、神の子として生きる永遠のいのちの恵みをいただくことが出来るのです。

ここに、わたしたちがカトリック信者として生きる、わたしたちの信仰のすべてが、要約されています。間もなく迎える聖週間、このようなわたしたちの信仰が、より深くわたしたちの中に染み通ってゆく恵みを祈り求めたいと思います。